

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	本事業の上位目標は、3年間で地域の大人たちが子どもの健康と安全を自律的に保障する学校地域社会が形成されることである。 1年次は、上位目標達成のための基盤づくりとして、地域の大人たちが、子どもの健康と安全に配慮し保障するための知識・技能・視点を高める研修を形成し、実施した。すなわち、小学校保護者への教室構造補修と環境活動をととした運営能力向上と実務研修、住民への地域保健ボランティア(CHW)の意義の周知とCHW候補への育成研修を実施した。これらを通して、地域の大人たちが、知識・技能・視点を高めたことは確認されたが、自律的な行動につながった事例は、未だ確認されておらず、2年次以降の課題である。
(2) 事業内容	(ア)保護者の学校運営能力向上と(イ)地域保健戦略の強化とが、相乗効果を発揮することが、上位目標の達成に貢献する。この観点から、(イ)を実施するエカラカラ地区エカラカラ準地区およびキリヨコ地区ミアンゲン準地区の2準地区を優先準地区として(ア)の事業も行なうこととした。 (ア) 保護者の学校運営能力向上 小学校の保護者が、教室の構造補修等に参加し、技術面・運営面のほか、子どもの健康に関する知識・技能・視点の習得を目指して実施した。 a. 教室構造補修:老朽化した教室に対して、保護者参加による学校運営能力研修と教室補修を3校6教室で実施する計画に対して、次のとおり実施した。 ・学校運営能力研修を実施した学校数:6校 ・年度末までに完了した教室数:4校6教室 ・年度末までに資材供与し作業継続中の教室数:3校3教室 ・予定される最終成果:6校9教室 b. 教室建設:保護者参加による教室建設は、1年次は実施しない計画に対して、次のとおり実施した。 ・学校運営能力研修を実施した学校数:1校 なお、教室建設は、2年次に実施する。 c. リテンド(土留め)壁建設:教室基礎まわりの土壌が流され、脆弱になった基礎にリテンド壁を設置し、建物の安定を確保する活動は、1年次に6校で実施する計画に対して、次のとおり実施した。 ・年度末までにリテンド壁を完成した学校数:6校 d. 水タンク設置:水不足の学校への4200リットルの水タンク設置は、1年次に2校2台実施する計画に対して、実施しなかった。マチャコス郡が全ての小学校を対象に10000リットルの水タンクを供与したため、援助効果の観点から中止し、2年次以降も実施しない。 e. 保護者の環境活動:環境活動の必要性和実践への関心がある学校での保護者参加の環境活動は、学校菜園、サック菜園、土壌保全、野菜乾燥、野菜を利用した給食などの活動を1年次に2校で実施する計画に対して、3校で実施した。 f. CDFの教室補修への助言:国会議員選挙区開発基金(CDF)資金で教室補修する小学校への助言活動は、1年次に2校で行う計画に対して、3校で実施した。 (イ) 地域保健戦略の強化

	2 優先準地区で、地域保健ボランティア(CHW)育成と、CHW をグループ化する地域保健単位(CHU)の形成に取り組んだ。 a. 地域リーダー保健研修:村長老やリーダーを対象に1日の保健研修を、1年次に2準地区2回の実施で60人が参加する計画に対して、2準地区3回の実施で131人が参加した。 b. CHWを知らせるための村訪問:CHW 育成研修を行なう2準地区の全村30村を平均2回訪問し、延べ900人の住民との村人会議の開催とCHW 候補を選出する計画に対して、2準地区40村を延べ99回訪問し、延べ2,163人の住民が参加し、108人のCHW 候補を選出した。 c. CHW 育成研修:2準地区でCHW 育成研修を、準郡保健局との協働で、それぞれ4週間実施し、1年次に2準地区で計80人がCHW 育成研修を修了する計画に対して、2準地区70人がCHW 育成研修を修了もしくは準じる状態にある。研修を部分欠席した参加者への補習研修を順次実施しており、2年次に修了者の増加を図る。 d. CHW フォローアップ研修:研修を修了し、日常の保健活動を開始したCHW に追加的な研修を1年次に5回程度実施し、CHW が延べ150人参加する計画に対して、フォローアップ研修は実施しなかった。理由は、育成研修の部分欠席者への補修研修を継続しているためである。 (ウ) 行政関係者との協働 当会と行政関係者と協働で、地域の問題分析、事業形成、モニタリング、評価を実施し、実施マニュアルを作成する活動に取り組んだ。 a. 準郡レベルの行政関係者会議:準郡中央行政局・保健局・教育局およびCDF マシニング事務局と個別に関係者会議を年2回計8回開催する計画に対して、準郡中央行政局1回、地方行政局1回、保健局25回、教育局5回、CDF 事務局4回の計36回実施した。(イ)地域保健戦略の強化においては、保健局が当会と協働しつつ、CHW 育成への積極的な関与を促すため、頻繁に関係者会議を実施した。また、保健局とは、CHW 対象の保健およびエイズ教育マニュアルの形成・改善をすすめている。CDF 事務局へは、当会の教室補修マニュアルを提供し、CDF の補修事業の改善を働きかけている。 b. 地区レベルの行政関係者会議:事業対象である4地区で、事業趣旨の説明および住民参加の側面での協働の協議を1年次に計4回実施する計画に対して、7回実施した。 c. 準地区レベルのリーダー会議:3年間でCHW を育成する5準地区において、1年次にそれぞれ2回で計10回の関係者会議の開催の計画に対して、CHW 育成に取り組んだ2準地区で、具体的な課題について協議するリーダー会議を10回開催した。
--	---

(3)達成された成果	(ア) 保護者の学校運営能力向上 教室構造補修、教室建設、リテンド壁建設を 9 校、環境活動を 3 校、CDF の教室補修への助言を 3 校で実施、延べ 7,660 人の保護者が研修に参加して、子どもの健康と安全の保障に関連する基礎的な知識・技能・視点を習得した。外部監査人による事業監査での関係者からの聞き取りからは、教室補修により子どもの学習と健康状況が改善された実感や、保護者が時間通り集まって行なう学校活動の効果、教室基礎周りの土壌浸食や教室の老朽化が子どもの危険となることへの気づきなどの発言が複数あった。 指標の基づく達成度は以下のとおり。 a. 教室の構造補修を 20 教室(達成度 166%) (20 教室増:うち本事業 9 教室、住民活動 11 教室) b. 安全な教室で授業を受けることができる生徒数 700 人増(達成度 166%)(20 教室改善) :→1 教室の標準生徒数 35 人から計算 (標準生徒数:対象地区生徒総数 17,413 人÷504 教室) (イ) 地域保健戦略の強化 2 準地区で、各村で住民が CHW の役割を理解した上で CHW 候補を選出すること、その候補が CHW 育成研修を修了し、CHW は地域での保健活動を開始したため、2CHU が形成できた。一方、研修の一部を欠席した候補への追加研修を継続して実施して、2 年次も CHW 研修修了者数の増加に取り組んでいる。 指標に基づく達成度は次のとおり。 a. 対象準郡東部において「本事業での CHU 形成」と「当会の助言による準郡保健局の自律的な CHU 形成」により、無償保健活動の基盤となる CHU 形成率が増加する。 CHU 形成率:基準指標の 35.7%から 50.0%に増加する目標に対して、40.9%から 59.1%に増加した。 基準指標を、準郡全域 28 準地区:CHU 必要数 28;既存数 10 の形成率 35.7%から準郡東部 20 準地区:CHU 必要数 22;既存数 9 の形成率 40.9%に変更した。 (4CHU 増:うち本事業 2CHU、その他 2CHU) (ウ) 行政関係者との協働 行政関係者から保護者・教員・CHW・村長老など住民への子どもの健康と安全の保障につながる当会の事業経験を踏まえた助言事例が 5 件発現することをめざして取り組み、次の事例が確認できた。 ・マシंगा準郡公衆衛生官が、小学校へ教室の強度を向上させる構造補修を文書で助言した。 ・エカラカラ地区公衆衛生技官も、小学校へ教室の強度を向上させる構造補修を文書で助言した。 ・ミアンゲニ準地区長が、CHW を知らせる村訪問に度々同行し、当会が説明する CHW の意義を、自分の言葉として住民への助言を繰り返した。 ・CHW の動機づけに報酬が必要と主張したキリヨコ地区公衆衛生技官が、ミアンゲニ CHW への研修で無報酬での活動の重要性を助言した。 ・エカラカラ小学校長によると、地区長および準地区長が、同校での土壌保全活動の重要性を保護者に説明し、参加を促した、とのこと。
-------------------	---

(4)持続発展性	本事業を通して、活動に参加する関係者は、技術面・運営面のほか子どもの健康に関する知識・技能・視点を習得し社会的能力を向上させた。事業終了後も自律的に課題へ取り組む状況を形成するようにさまざまな工夫をしている。 (ア) 保護者の学校運営能力向上 本教室補修事業では、マニュアルを提供し、運営能力向上研修を実施し、職人を保護者が雇用・監督するよう促し、建設作業を保護者への技術研修と位置付けて1教室目の構造補修を完成させる。さらに、2教室目の構造補修では保護者が自律的に作業に取り組めるよう専門家の指導を減らしている。これらを通して、保護者は、事業終了時点で教室の維持管理に必要な運営能力・技術力を獲得することになる。保護者からの聞き取りによると、学校内の活動だけでなく、教会・自宅の補修や家庭菜園を実施し、さらに、その知識を周りの人に教えているという発言があり、今後も地域への普及が期待される。また、当会が CDF 資金により教室補修を実施する小学校へ助言を行った結果、当初の予定にはなかった構造補強となる資材の使い方・基礎部分の強化・柱の設置、資材計算など当会の補修の視点や手法が適用された。CDF マシニング事務局に学校補修マニュアルを共有、引き続き、協働しながら小学校への助言の効果の向上を目指す。 (イ) 地域保健戦略の強化 地域の保健課題に無償で継続的に取り組む意欲のある CHW を選出し、研修をとおして内発的動機づけを行うことで活動を持続する環境を整えている。CHW からの聞き取りによると、エイズ・早期妊娠・環境等健康などに関する知識・技能・視点・態度を習得したことで、地域をきれいにするように働きかけたり、家庭訪問や集会で病気の予防と管理・HIV 陽性者との共存・早期予防・よい衛生状態を保つ方法を伝えたり、子どもの健康と安全を守る持続的な行動が確認された。看護師からは診療所に多くの住民が通うようになったとの発言があり、CHW を主体とした保健状況の改善が見込まれる。また、保健局とは研修実施だけでなく保健およびエイズマニュアルの形成と改善を協働ですすめている。この実績をもとに保健局は、マチャコス郡政府に自律的に CHW の育成ができることを説明し、郡政府予算で 2CHU を形成する合意をえた、とのこと。 (ウ) 行政関係者との協働 行政関係者が当会との協議をとおして子どもの健康と安全を保障するための課題を深め、より自発的な行政官からの課題への対処に関する提案や方策が挙がるような協議内容を意識している。協議の中で、地域保健戦略担当のマシニング準郡公衆衛生官は、CHW 理論研修終了後から実践研修を経て実際に活動を開始するまでの期間について、「CHW の動機付けという点でもこの最初の 1 ヶ月が重要であり、保健局としても積極的に関与していきたい。」と発言し、具体的なフォローアップ活動の提案があった。また、キリヨコ地区公衆衛生技官は、ミアンゲニ CHW に対して活動を説明する際、副次的利益ではなく、CHW 活動そのものの意義に目を向けるよう積極的に説明した。このような自発的な行政官からの課題に対処する提案や方策は、地域での住民への指導に反映されている。行政関係者が、活動の経験を普及するよう、さらなる発展が期待される。
----------	---